

第 19 回政策推進会議報告

日 時 1月4日 9時30分～10時38分
場 所 4 - 1 会議室
出席者 18人

1 年未年始期間中の業務状況等について

企画財政局長から報告

- ・ 業務としての出勤はなし。
- ・ 平成 25 年度予算編成作業が大詰めであるが、政権交代となり、公務員人件費の削減や地方交付税等、国の制度改正も予定されているため、その影響が懸念されるところである。しかし、25 年度は総合計画と行財政改革計画の初年度でもあることから、希望の持てる予算案にしたいと考えている。

総務局長から報告

- ・ 情報政策課が電子計算機器を 1 月 4 日から稼働させる必要があり、1 月 3 日に試験稼働を行うため、職員 1 名が出勤した。
- ・ 今年は、地域防災計画の改訂や人事評価制度、管理職手当の見直しに取り組む。また、2 月には暴力団排除条例を議会に提案する予定であり、7 月施行に向けて市民、事業者によく周知する。

資産統括局長から報告

- ・ 12 月 29 日から 1 月 3 日の 6 日間に各種届出があったものはそれぞれ、死亡、婚姻、出生、戸籍等 138 件、郵便物 72 件、市営葬儀等の電話受付が 42 件であった。
- ・ ポートレースは、12 月 25 日から 30 日まで「今年もありがとう競走」を開催した。6 日間の売上総額が 11 億 4,900 万円で、1 日の平均でみると 1 億 9,000 万円となった。また、1 月 4 日から 9 日まで福娘・福男競走と称し、兵庫県の有名選手も招いて、男女混合戦を開催しているので、ぜひ足を運んでもらいたい。なお、1 月 12 日から 17 日まで G レース 60 周年記念近松賞を開催する。ただ、この冠名は、近松のイメージが尼崎と直結していないので、今年を最後として変更する予定である。
- ・ 今年の課題としては、公共施設の最適化や市税収入率の向上、公営事業所の売上増であり、着実に取り組む。

市民協働局長から報告

- ・ 業務としての出勤はなし。コールセンターは午前 9 時から午後 5 時まで対応し、市役所の業務関係の問い合わせが 30 件、ごみ収集に関する問い合わせが 57 件、戸籍関係が 29 件のほか、計 234 件であった。
- ・ 今年は「ともに学び、行動する」をモットーにしており、誰かが行うことを期待するのではなく、まず自分から行動することを肝に銘じる。市民を基点として地域、現場に赴いて学ぶ、また、いつかではなく今行動していく。団塊の世代が大量退職したため、私たちが学んで行動する組織にしようと考えている。

医務監から報告

- ・ 休日夜間急病診療所では、12 月 29 日から 1 月 3 日の朝 9 時から翌朝の 6 時までの 21 時間、3 交代で勤務した。来院者は、内科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、合わせて 2,803 件で、昨年度に比べ、205 件の減少となった。そのうち、後送病院に転送したのが 29 件あった。また、口腔衛生センターは、同じく 12 月 29 日から 1 月 3 日の午後 1 時から午後 5 時までで、184 件の受診があった。

- ・ 食品検査場では、12月29日・30日に午前4時半から午前11時15分まで、魚介類の検査と流通確認のため、食品衛生監視員の職員1名が監視指導を行った。
- ・ 斎場では、元日と友引の3日を除いた4日間で大人69件、胞衣41件、死生2件の火葬と証明事務1件の対応があった。
- ・ 今年度は地域いきいき健康プランあまがさきの改定作業を行っており、審議会の開催回数を1回追加するなど熱心に議論しており、いいものを作りたいと考えている。
- ・ 救急医療体制について、医師会の協力を得て準備しており、4月を目処に新体制に移行できるものと考えている。

健康福祉局長から報告

- ・ 福祉事務所では、生活保護受給者への対応が12月29日から1月2日までで4件あった。きずなサポートセンター尼崎に寄せられた生活保護の相談は1件であり、食事と宿泊場所の提供を行った。
- ・ 25年度は新しい総合計画と未来につなぐプロジェクトが始まる年であり、職員が一丸となって進められるよう、リーダーシップを取って着実に進める。また、25年度は障害福祉制度が改められるとともに、自民党政権になったことで、生活保護制度の見直しが新聞で報道されている。ともに本市財政に大きな影響を与えていることなので、情報をいち早く入手し、よりよい制度となるよう、二つの計画との連動も考えたい。

こども青少年局長から報告

- ・ 業務としての出勤はなし。
- ・ 昨年1年間を通じて、日常業務を効率よく確実に実施しなければならないと感じた。小さなトラブルを引き起こすことによって、より業務が増え、緊急対応をしなければならないといった悪循環に陥っている。どの部署も人数が少ない中、経験やノウハウをきちんと引継ぎ、確実に実行することで市民に迷惑をかけずにサービスを提供しなければならない。国の制度は政権交代によってどのように変化するのか不透明であるが、27年度からのこども子育て新システムの施行に合わせて組織を整備する。

経済環境局長から報告

- ・ ごみ収集は、年末が30日まで行っており、業務課の職員が出勤し、年始が本日4日に出発式を行った。また、25年度からごみ収集の回数が変わるので、その周知に努める。
- ・ 尼崎市地方卸売市場は30日まで開場、年始は5日に初市式がある。
- ・ 昨今1月1日からスーパーが開業しているなど、消費生活の質が変わっているので、地方卸売市場もその対応が必要となる。最近では暗い話題が多いので、次期総合計画でいようなありたいまちにしたいか、経済環境局として時流を捕らえて、市民・事業者のために使命を果たしたい。ともすれば課題を片付けることに目を奪われがちになるが、今を見つめつつ将来を想像する力を持った職員を育てなければならないと感じている。また、経済環境局の職員の行動規範としては、リーダーシップ、フォロアーシップ、パートナーシップといった3シップを持つことや、これまでのことに捕らわれず、スピード感を持った行動変容とすること、成功イメージや想像力を持ち、予知して対応できることができるように指示し、各所属で話し合ってもらおう。

都市整備局長から報告

- ・ 下水道部のポンプ場及び北部浄化センターは、通常管理業務で1日約30数人、6日間で約200人弱が出勤した。
- ・ 交通安全課は、自転車駐輪場の新規の定期販売業務を22日から翌月3日まで行っているが、1月分に関しては12月29日と30日の2日間、職員4人での販売とし、2日間で8名が出

勤した。

- ・ 建築課は上坂部小学校の工事で、職員の出勤があった。
- ・ 道路維持担当は、植樹帯でくくりつけていた針金が道路上に出ており、それでけがをした小学生の対応などで、職員の出勤があった。
- ・ 公園課では1月1日に約4メートルの桜の枝が折れたが、けが人はいなかった。
- ・ 今年の見込みとしては、インフラや建物の耐震化を含めた再整備が必要となる。日常の維持管理を含め、毎日何も事が起こらないからというのではなく、市民にとって安全安心を提供できるように努める。ただ、職員が少なくなっている中、受託事業について各局に迷惑をかけている事例があるので、横断的な連携が図れるよう協力をお願いしたい。

消防局長から報告

- ・ 12月1日から年末年始火災警戒体制のため、年末も通常業務を続けている。12月29日から1月3日までの間で、火災は0件であったが、救急出動が467件で、通常より多かった。
- ・ 24年中の火災の年間総件数は155件で33件減っているが、救急の出動件数は24,955件で過去最高となっている。
- ・ 消防救急無線のデジタル化が28年5月までに予定されており、伊丹市との共同運用に向けて取り組む。また、今年が自治体消防の発足65年となることから、原点に帰り、地域との密着に取り組む。

水道事業管理者から報告

- ・ 管路の維持・修繕業務は、12月29日と31日に各日5人、12月30日と1月1日から3日まで各日4人、計26人が出勤した。
- ・ 神崎浄水場は、場内警備に各日2人、計9人出勤した。
- ・ 水質検査業務は、12月31日と1月3日に職員が出勤した。
- ・ 園田配水場は12月29日から1月3日まで、昼間3人、夜間2人、計33人が出勤した。
- ・ 年末年始の修繕件数は6件であった。
- ・ 水道、工業用水道ともに、再構築の時代になっているため、水道・工業用水道ビジョンあまがさきや24年度から27年度までの中期事業方針に基づき、25年度は施設整備計画を定め、着実に進める年となる。

自動車運送事業管理者から報告

- ・ 12月29日から1月3日まで日曜祝日運行とし、元旦は6時の始発時間に合わせて管理職員も出勤した。この間、事故は発生しなかった。
- ・ 12月26日から28日に職員全員に民営化の素案を説明し、1月4日から希望退職を募るため、個人面談を行う。今年が交通局は終わりに向けての始まりの年となる。民営化に向けた業者選定や職員の処遇、交通事業振興株式会社の対応などに取り組む。職員はどうなるのか不安なようであるが、民営化されてよかったと思われることのないよう、最終年まで気を引き締めて、惜しまれるような最後となるように努力する。

議会事務局から報告

- ・ 元議員が亡くなったため、死亡叙勲の申請に係る略歴を整理するため職員が出勤した。
- ・ 28日の仕事納め後に、総務消防委員が年末火災特別警戒の激励のため市内各消防施設を巡回したのに伴い、職員が2名同行した。
- ・ 新聞報道であったように、今年が議員の改選の年であり、引退も含め、何人かは入れ替わることになる。新しい人が入ると議員個人の思いから、古くからある仕組みが崩れることもあり、そのルールづくりに苦労することがあるが、議会事務局の職員だけでなく、会派の議員にも協力を仰ぎ、スムーズに移行できるように尽力する。また、間近に控える予算議会にお

いて、予算関連議案が成立するよう、いち早く情報提供する。

教育長から報告

- ・ 年末年始については、特にトラブル等は聞いていない。
- ・ 教育委員会は学校適正規模・適正化や尼崎養護学校の市内移転、学校施設の耐震化等の課題が山積している。来年度から実施される総合計画という教育委員会としてのありたいまちの姿は、人づくりを大切にすまちと考えている。その人づくりの基本は教育と考えており、現場に赴き、学校や市民等、頑張っている人を応援するため、各局と連携して取り組む。

顧問から報告

- ・ 4月に着任してから9か月が過ぎたが、今年は地域住民との連携を目指し、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、情報の早めの発信に気をつけたいと考えており、市民への情報提供と記者対応をうまくいくようお手伝いしたい。本市は45万人の大都市であるため、情報が一律に伝わっていないように感じる。鳥取市を例にすると、人口は17万人であるが、県庁所在都市であるためか、鳥取新聞や放送局を活用し、あまねく情報が届いているようである。このようにメディアを味方につけて、うまく情報を伝えていくように打ち出さなければならないと考えている。また、現在ホームページは各課が管理しているが、新しい見せ方ができないか、意識して取り組みたい。職員にはコミュニケーションファーストという考え方を念頭において仕事してもらいたいと思っている。

村山副市長から報告

- ・ トヨタ自動車が世界的な品質問題で大変な状況に至ったが、もっといい車を作るんだという社長の強い意識で社員に呼びかけ、その結果、アメリカで前年を上回る販売台数に回復した。これは、社長にはこれまでいい車を作ってきたという自負があり、社員に対して自信を持つべきと呼びかけたことがきっかけとなったようである。今、日本の電化製品は価格競争で世界的に厳しい状況となっているが、選ばれるものを作るというトヨタの戦略は今後の参考になるのではないかと。翻って我々もいい仕事をするということを念頭に置かなければならない。財政再建だけを考えればマイナスの方向に寄与しがちになるが、いい仕事をするにはどうしたらいいかを問いかけていかなければならない。いい仕事をした喜びを感じるような市役所となるようサポートする。

岩田副市長から報告

- ・ 今朝、尼崎環境事業財団の仕事始め式に出席した際、年末年始において、市外住民も含めて斎場の利用が多かったと聞き、つくづく健康が大事であると認識した。また、大谷本廟に初詣した際、「種まかずして小判も逸歩も生える例なし」という書を見つけ、あらためて一歩ずつ丁寧に仕事をするのが大事だと思った。今年も各部署と連携を取り、市長をサポートしていく。

市長から報告

- ・ 就任1年目は無我夢中で疲れを感じている暇はなかった。2年目となり、色々至らない部分が出てきて落ち込んだり、悩むこともある状況ではあるが、皆さんと一緒に頑張っていこうと思っている。正月は箱根駅伝を見ていたが、往路の最後が山登りで、本市もこの10年が最後の山登りと思っている。借金返済の踏ん張りどころで、きちんと都市の体質転換に取り組み、これから将来につなぐための10年の計画の初年度に臨みたい。駅伝の山登りも平地と同じ走り方ではないように、本市の財政状況にふさわしい走り方を意識してもらいたい。また、駅伝は出られなかった人や学校がある中、出ている人はしんどい場面でも、たすきを持って走っている喜びを感じながら誇らしげに走っている。我々もまた、自信を持ってやりがいを感じて仕事しないとまちの輝きを取り戻すことは困難ではないかと思う。また、各局に

においては自分の局のことだけでなく、尼崎市役所全体のことを考えられるような職員を育てないといけない。まず健康は第一として、仕事を頑張るのは当たり前で、それ以上に多くの人と交流し、刺激を受けることで仕事に反映されると思う。私の任期も折り返しとなるので、残期間を逆算して仕事をしていきたい。

以 上